

「よくあてはまる」で評価
()内は「よくあてはまる」「あてはまる」合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。

[a…よくあてはまる, b…あてはまる, c…あてはまらない, d…まったくあてはまらない]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

Table with 11 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO., 評価の観点, 達成基準, 4月, 7月(現状), 12月, 結果分析・改善, 学校運営協議会, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for two main areas: 'School Management' and 'Student Learning'.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒	⑧ 生徒	aの割合 A-60% B-50% C-40%	12(74)	23(78)		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」と答えた生徒は78%だった。また、「よくあてはまる」と答えた生徒も23%であり、4月から11%の増加にとどまり、目標には到達しなかった。	小学校も中学年くらいからチャットで交流するようになり、それが学習時間を削いでいる。特に男子にある。鳥越の子ども達は言ったことはちゃんとやる。でもこれだけ大人になったら足りない。言われたことだけやるんじゃない。自分でやりたいことを見つけたら、自分で計画立ててできるようにしなければならない。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート(家庭学習ノート)の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にガリタイム(自主学習時間)の確保	⑦ 保護者	a+b A-85% B-75% C-65%	69%	70%	○7月評価時点での成果と課題 教師の取組が「あてはまる」まで見ると100%であるが、「よくあてはまる」もみだり43%である。保護者の家庭学習の取組への評価も同様に低い。原因を分析し対策を講じる必要がある。	部活があるから勉強できないではなく、その時間をどうやりくりするかが大事である。時間をやりくりしたり、自分で決めたことをやる力が弱い。授業の中でもみんなが同じことをやるのではなく、自分で決めて勉強する。	
			1 2 教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	aの割合 A-60% B-50% C-40%	43(100)	43(100)	○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。また、家庭学習につながる授業づくりも大切になってくる。	真面目で素直な子ども達が、言われたことだけするのではなく、自分でやれる子にしてやらなければならない。中学校に行ったときに家庭学習ができないというのは、言われたことだけやってきた小学校時代を過ごしてきたら、どうやっていいかわからない。じゃあ、小学校で何ができるのか。どう時間を使っていいかを考えられるようにしたい。	
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒	⑪ 生徒	aの割合 A-65% B-50% C-35%	33(93)	49(98)		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる。」の項目では、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月から16%増加したが目標には達成しなかった。「あてはまる」まで見ると良好である。「友達に対して思いやりの心で行動している」は4月から4%増加して目標を達成することができた。	
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持ちや良い行動を伝え合う	1 5 教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	38(100)	38(100)	【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえもの羽」に加えて「みんなで咲かせよう ありがとうの花」の取組もあり、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。こうした活動を継続することによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。一報、教師の「よくあてはまる」が38%であり、教師の働きかけが原因であると考えられる。	
			⑫ 生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	92%	96%	○目標・計画の再設定(Action) 目標の再設定はせず、教師自身が生徒たちの良いところを見つけて伝えていく取組を充実させることで、生徒たちの思いやりの心を育むようにしていきたい。		
			⑩ 保護者	お子さんは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	95%	92%			
			1 6 教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育つよう指導している。	a+b A-95% B-85% C-75%	88%	88%			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒	⑬ 生徒	aの割合 A-65% B-50% C-35%	38(96)	42(95)		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「あいさつ」の項目については「あてはまる」まで見ると95%と概ね良好であるが、「よくあてはまる」もには42%と4月から4%上がったが目標を達成することができなかった。保護者の評価も6%下がっており、教師の働きかけも4月から変わらなかった。自律清掃に関する項目については4月の調査から4%減少した結果となった。	掃除の後半は汚れているところ見つけて掃除をすることになっているが、そんなのはあまり得意ではない。決まったことだけして終わってではなく、まだなんか足りないという積み重ねができればいい。悪かったところは分析して対応してもらえればいい。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑪ 保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	95%	89%	【7月評価時点での成果と課題】 生徒会でボランティアを募ってのあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などの取組が成果に繋がっている。普段の様子からあいさつはできているので、教師があいさつを返すだけでなくそうした良い行いを認めてあげる声かけが必要である。自律清掃については教師の取組とは反対なので、原因を分析して取り組んでいく必要がある。	
			1 8 教師	進んであいさつができるように指導している。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	75(100)	75(100)	○目標・計画の再設定(Action) 目標の再設定は行わず、生徒会とも連携してあいさつが飛び交う活気ある雰囲気を作っていく。今後は対外的な行事も多くなるので定期的に指導もしていきたい。		
			⑮ 生徒	自律清掃を意識して清掃に取り組んでいる。	a+b A-95% B-85% C-75%	94%	90%			
			2 0 教師	自律清掃を意識した指導をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%			
			⑯ 生徒	地域に関心を持ち、その良さを理解している。	aの割合 A-70% B-60% C-50%	23(93)	45(87)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は12%上がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は6%下がった。「地域に貢献したいと考えている」生徒の割合は85%にとどまったが、4月から4%増加した。		
3	豊かな心と健やかな体を育てる	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒	⑯ 生徒	aの割合 A-70% B-60% C-50%	23(93)	45(87)		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は12%上がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は6%下がった。「地域に貢献したいと考えている」生徒の割合は85%にとどまったが、4月から4%増加した。	
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	2 1 教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように取り組んだ。	aの割合 A-70% B-60% C-50%	25(100)	25(100)	【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。	
			1 7 生徒	地域に貢献したいと考えている。	a+b A-90% B-80% C-70%	81%	85%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。		
			2 2 教師	地域への貢献意欲を高める指導をした。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%			